

英語

今回の模擬試験では、近年の入試レベルや傾向を踏まえた上で、名大受験に必要な英語力を問う設問を盛り込んだ。得点率は、大問Ⅰ（35%）、大問Ⅱ（38%）、大問Ⅲ（60%）、大問Ⅳ（21%）となった。特に、長文読解では名古屋大学で頻出の高校生には馴染みの薄いテーマを扱った科学系の論説文を出題しており、受験生の多くが時間配分に苦戦したと思われる。難解な大問で時間を使いすぎ、得点源とすべき大問で実力を発揮できなかった受験生は、本番での解答順序や時間配分について再考する必要があるだろう。また、自由英作文では設問の要求を正確に読み取り、論理的な文章を構築する力が問われた。

Ⅰ 〈長文読解（論説文）〉

「オンラインコミュニケーションにおける音声の質が、聞き手の印象に与える影響」について書かれた論説文である。本文は比較的読みやすい英文で構成されていた。ここでは Zoom での会話を通して、音質の良い機器を使った同僚とそうではない同僚に対する筆者の反応を軸とした「対比」が展開されており、その内容を正確に捉える必要があった。設問2の正解である sway は難度の高い語彙だが、解答解説で示されているように、他の選択肢が文法上及び文脈上不適切のため消去法での解答が可能である。未知の語彙に直面した際に、文脈や他の選択肢から正解を導き出す冷静な判断力が求められる。

Ⅱ 〈長文読解（論説文）〉

「気候変動が南極環流に与える影響」をテーマとした、科学的な論説文からの出題である。得点率は38%と低い水準であった。解答解説にも「やや難解で、あまり馴染みのないテーマ」とあるように、これは名古屋大学の入試本番で出題が予想される典型的な問題形式であり、高い読解力が求められる。設問1では、南極環流の比喩表現として「城壁」を選び、その理由を記述することが求められた。温かい水や外来種の侵入を防ぐ「障壁」としての役割を理解しているか、が問われている。なお、設問1の問題形式は、2025年に実施された名古屋大入試で初めて導入されたものであり、記号の正答率が高い割に理由を記述することができなかった受験生が多かった。また、設問5の vicious（悪循環の）のように、文脈から適切な語彙を選択し、専門的な概念（負の連鎖）を完成させる問題も、差がつくポイントであったろう。このような科学系の長文読解能力は、一朝一夕には身につかないため、日頃から様々なテーマの英文に触れておくことが不可欠である。

III 〈会話文〉

「AR（拡張現実）の利点と課題」についての会話文である。得点率は60%と最も高く、多くの受験生が得点源としたことがうかがえる。名古屋大学で例年見られる長めの対話文であり、ARに懐疑的なサムと、その可能性を肯定的に捉えるカーラという、二者の立場の違いを把握しながら読み進めることが重要であった。設問1の *scratching the surface*（表面をなぞっているだけ）や、設問2の *a house of mirrors*（現実と仮想が混乱した状態）といった口語的な比喻表現は、たとえ知らなくても文脈からその意味を推測する力が試された。会話の流れや話者の感情を正確に読み取ることが、高得点の鍵となる。

IV 〈自由英作文〉

従来、名古屋大入試の大問IVでは図や表を基にした英作文が出題されていたが、2025年は図表が使われていない形式となっており、今回の模試では「ネットショッピング」をテーマとした自由英作文を出題した。得点率は21%と極めて低く、多くの受験生がここで点数を落としたことが明白である。本問では、各設問で課された条件をいかに忠実に守って記述できるかが問われた。設問1では「第三者の視点」から客観的な影響を述べる必要があり、一方で設問2では「あなた自身の生活」について主観的に述べる必要があった。この低い得点率は、長文読解に時間を取られ、十分な解答時間がなかったことに加え、設問の要求に的確に応えられなかった受験生が多かったことを示唆している。解答解説で示されているように、*However* や *First, Second* といったディスコースマーカーを効果的に用いて、一貫性のある文章を構築する練習が必要である。

【採点基準】

I 【60点】

設問3 【15点】

配点区分

- ①「多くの研究により、～ことがわかっている（多くの研究が～ことを示している）」で3点
- ②「どれほど自信のある話し方かや訛りの有無などの要素が（どのくらい自信のある声に聞こえるか、訛りがあるかといった要素が）」で8点
- ③「他人の話し手に対する認識（他人がその人をどう認識するか）に影響を与える」で4点

設問4 【8点】

配点区分

- ①「録音にははっきり聞こえるものもあれば」で3点
- ②「耳障りな高音に聞こえるように人工的に処理されたものもあった」で5点

II 【66点】

設問1 【15点】（記号：5点 理由：10点）

- ・「句読点を含めて40字以下」の場合は、5点減点
- ・文末が「～から。」など理由を示す表現になっていなければ2点減点

配点区分

- ①「南極環流と城壁」, 「南極大陸と城」の関係を比喩として表していれば6点
- ②「温かい水」と「外来種（侵入種）」を挙げていれば2点
- ③「南極大陸への侵入を防ぐ」（もしくは類似の表現）で2点

III 【42点】

設問5 【16点】

- ・「30語から40語」という条件を満たしていない答案は得点なし
- ・内容に関して以下のレベルに応じて減点

レベル1) 英文全体が設問の答えになっていない：得点なし

レベル2) 設問の答えにはなっているが、全体的に内容がわかりにくい、または論理関係が成り立っていない：7点減点

レベル3) 設問の答えにはなっているが、内容的に一部わかりにくい、または論理関係が成り立っていない箇所がある：5点減点

レベル4) 設問の答えが明確に書かれており、英文が明瞭である：減点なし

- ・上記の内容面に加え、英語として不適切な文法や語法が使われている場合も減点対象とする

IV 【32 点】

設問1 【16 点】

・「30 語から 40 語」という条件を満たしていない答案は得点なし

・内容に関して以下のレベルに応じて減点

レベル 1) 英文全体が設問の答えになっていない：得点なし

レベル 2) 設問の答えにはなっているが、全体的に内容がわかりにくい、または論理関係が成り立っていない：7 点減点

レベル 3) 設問の答えにはなっているが、内容的に一部わかりにくい、または論理関係が成り立っていない箇所がある：5 点減点

レベル 4) 設問の答えが明確に書かれており、英文が明瞭である：減点なし

・上記の内容面に加え、英語として不適切な文法や語法が使われている場合も減点対象とする

設問2 【16 点】

・「40 語から 50 語」という条件を満たしていない答案は得点なし

・内容に関して以下のレベルに応じて減点

レベル 1) 英文全体が設問の答えになっていない：得点なし

レベル 2) 設問の答えにはなっているが、全体的に内容がわかりにくい、または論理関係が成り立っていない：7 点減点

レベル 3) 設問の答えにはなっているが、内容的に一部わかりにくい、または論理関係が成り立っていない箇所がある：5 点減点

レベル 4) 設問の答えが明確に書かれており、英文が明瞭である：減点なし

・上記の内容面に加え、英語として不適切な文法や語法が使われている場合も減点対象とする